

東北大学は1907年(明治40年)に第3番目の帝国大学として創立されました。現在は、10学部、15大学院研究科、5附置研究所、3専門職大学院に加えて、多数の教育研究に関わるセンター等を擁しており、約4,900名の教職員と、学部・大学院生約17,700名(このうち女子約4,000名、留学生約1,200名)がキャンパスライフを共にしております。本学は、その開学にあたり、「研究第一主義」と「門戸開放」の基本理念を掲げ、以来今日に至るまで、各局部、各研究所がそれぞれの分野において切磋琢磨し、国の内外に指導的立場を築いて参りました。



昨年(2004年)4月、東北大学は、他の全ての国立大学と同様、法人化致しました。その結果、今後は、国から独立した「経営体」として、6年間の中期毎に、業務運営目標たる「中期目標」、それを達成するための「中期計画」を立て、新たな運営体制の下でその実現を図ることになりました。現在、本学がその達成のために、どのような運営体制を取っているかにつきましては、本「概要」に掲載しております。

さて、本学は、昨年4月の法人発足に当たり、「世界最高水準の研究・教育拠点」としての発展を目指すとの決意を表明致しました。そのような目標を実現するためには、今後、ますます研究・教育内容を充実させると共に、「世界最高水準の研究・教育拠点」にふさわしい運営体制、研究・教育環境の整備を進めることによって、着実に研究・教育実績を積み重ねていかなければなりません。

研究面においては、例えば、世界の大学・研究機関の研究力を測る指標として最もよく利用されているISI Essential Science Indicatorにおいて、東北大学は、近年一貫して、全22分野中、材料化学、物理学、化学の3分野において、世界ベスト20位以内の地位を確保しており、特に材料科学は、世界1、2位の健闘を続けています、又、昨年来、鈴木厚人教授のニュートリノに関する研究成果が、物理学の論文被引用件数において世界第1位になったり、科学誌Natureの表紙を飾るなど、世界の学界の大きな注目を集めています。

また、現在、東北大学からは、大型研究プロジェクトとして、自然科学から人文・社会科学にわたる13の21世紀COEプロジェクトと先進理工学研究機構(TUBERO)のプロジェクトが採択され、それぞれにおいて世界最先端の研究成果を生み出しつつあります。さらに2、3年先には、これらの成果を基に、先端学際融合領域を扱う国際的な研究教育組織「高等研究教育院」(仮称)を創設する計画も進めております。

教育面においては、2004年4月に発足した法科大学院、公共政策大学院に加えて、本年度に会計大学院が新たに設置され、これで東北大学は3つの専門職大学院を擁することになりました。また、本学は、2004年10月に高等教育開発推進センターを設立して全学教育の充実を図っているのをはじめ、学生選抜、就職支援、学生生活支援等の面でも積極的に改革を進めております。このような意欲的な取り組みの結果、本学は、例えば、朝日新聞社の『大学ランキング2006年度版』の「高校からの評価」部門で全国第1位にランクされたことに表れているように、入学から卒業までの間の学生の「伸び率」が最も高い大学との評価を固めつつあります。

将来のキャンパス構想に関しましては、長年懸案となっていた旧「青葉山ゴルフ場」の土地をめぐる訴訟がこのほど決着して、土地が宮城県に返還されました。その結果、東北大学の「青葉山新キャンパス」構想は実現に向けて大きく歩み始めました。今年度中に、本学は、県から新キャンパスの用地を取得する話をまとめると共に、「青葉山新キャンパス」土地利用計画を提示したいと考えております。これによって、環境アセスメント等が順調に進めば、いよいよ2007年度中に、サイエンスパークを含む「青葉山新キャンパス」の建設に着手する見込みです。

東北大学は、来る2007年(平成19年)に創立100周年を迎えます。現在、本学は、これまでの100年の伝統を基に、東北大学が次の100年で何を指すのかを広く社会にお知らせすること等を目的に、種々の「100周年記念事業」を進めております。本学は、今後、創立100周年を機に、教職員・学生一丸となって、卒業生さらには広く社会の方々とも連携して、「世界最高水準の研究・教育拠点」としての発展に取り組むと共に、それを通じて、社会の発展と人類の福祉の実現に貢献して参る所存です。

2005年11月

東北大学総長 吉本高志